

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300445		
法人名	株式会社 アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム厚原		
所在地	静岡県富士市厚原179番地1		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosvCd=2292300445-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハートフルホーム厚原は平成26年5月にオープンした施設です。1階がグループホームホーム1ユニット
と隣に小規模多機能型居宅介護が併設となっております。施設の近隣には茶畑や田んぼがあり富士山が見える環境にある為、お客様に散歩をして頂く際に移り行く季節を感じ取って頂く事が出来ます。近所の方が庭先で鯉や金魚の飼育をされており散歩の際に見学をさせて頂いております。地域交流として鷹岡地区の町内会に入っており、お隣のお宅へ回覧版を届けたり、地域のお祭りや防災訓練に職員と共に参加をさせて頂いております。家庭的な雰囲気の中でお客様の状態に合わせたサービスを提供し、ご利用者様の生活の質を向上させています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県内21の事業所を持つ法人なことから、これまで取組んできたことが豊富にあります。当事業所もそれに倣い「ペンギン倶楽部」と称して、体操やお好み焼き作りを通した「地域高齢者にコミュニティを提供しよう」との取組みにチャレンジしています。雨天等にも阻まれ未だ成功というまでには至っていませんが、地域包括支援センター、町内会の回覧板、居宅介護支援事業所の協力を以て募集をかけることができていて、行政・地域連携は開設4年目にして堅固です。また法人実施のアンケートは100%の回収率と、家族の信頼も築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として会社の経営理念を事務所に掲げて職員で共有しております。朝礼で月に2回、月に1度のチーム会議を始める前に職員全員で経営理念を唱和の実施しております。	ライフスタイルに合わせてシフトを工夫することで職員の「生きがい」に繋げ、近隣企業がおこなう交通安全誘導には利用者が旗振りの役割を分けてもらえる等「豊かな地域交流」へも日々向かう取組みがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入り、地域のお祭りや防災訓練への準備を含めて参加をして地域の方との交流を深めております。お客様と職員が回覧板を隣のお宅へお届けする等、地域の一員として役割と意識を持って頂けるような機会を設けております。	支援学校から10代の生徒が1週間ほど職業体験に訪れて触れ合えたり、相談協力員となってくださる民生委員のお宅に寄らせてもらって鯉を眺めるのも利用者の楽しみの一つとなり、地域に溶け込んでいます。	イベントが天候で左右されることが多いようなので、代替案についても協議に加えると、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を「アクタガワの日」として制定し、地域貢献の一環として近隣を清掃しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しております。議題にて入居者情報をお伝えしたり、施設での取り組みや活動報告をしております。御家族や町内会長、市役所職員や地域包括の職員のご意見やご要望を伺って、活動に活かしております。	開催日を予め定期で定め、民生委員3名他メンバーを豊富に擁していますが、参加率が低いことが課題です。それでも日頃の活動の様子をスライドショーで披露して、「わかりやすい」と好評です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市役所の方と地域包括の方が交互に出席して下さっています。そこで情報の共有を図っております。	運営推進会議には地域包括支援センター、市役所どちらかの出席が毎回得られ、集団指導には必ず出向き、介護相談員も受入れる他係る振り返り会議にも参加して連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない様、会議の際に職員に周知徹底させております。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねております。	玄関はオープンですが、ユニットには離設症状のある利用者が2名いて電子ロックが機能しています。扉の近くにいたり、「帰る～」となればドライブに誘うなどして気分転換を図り、本件にも法人のマンツーマン講習が慣行されています。	ユニット施錠が日常的にならないよう、1日のなかで僅かの時間でも開錠する取組みがあることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しています。全職員で5月、9月、1月で虐待防止自己チェックを実施してリストを管理者に提出し、常に注意喚起をして取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見制度について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けております。そしてご理解・ご了承を頂いてから署名・捺印をお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に開催している運営推進会議や年2回の家族会・お客様アンケートを通じてご意見を聴衆させて頂き検討をして運営に反映させて頂いております。	毎月翌月の行事も入れた職員手作りのポートレートを届けていますが面会は多い人で週1回程度のため、3ヶ月に1回と間が空くような家族には管理者が機会を捉えて会話を持つよう図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や業務の際に都度職員の意見や考え方を確認したり、個別面談を行って話を聴き反映をさせております。	働くお母さんもいたり時間に縛りのある人もいることから、月例会議は本番とフォローの2回実施して、全員が情報共有できるようにしています。また「皆の前で話すことも訓練」として、発言が苦手な職員には振っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに個人目標を設定し、上半期・下半期に評価面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップアップ研修に取り組んでいます。また、社外研修にも参加をしております。昨年より取り組んでいるビジネスマナー研修を年間4回程度で個別に実施しております。そこで培った経験を参加出来なかった職員にも伝えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や富士市グループホーム連絡会に参加をして、交流が図れております。また、年に1回グループホームの交流会にも参加し、平成29年10月に他の事業所のグループホームのお客様と職員をお招きして、一緒に料理を作ったり体操を行ったりして交流できました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にご本人、ご家族様、ケアマネジャー、福祉用具、医師、看護師に聴き取りを行い、その人らしい暮らしが入居後も出来るよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族と対話をして、悩みや要望、相談について事前に伺っております。入居後は、お客様の事業所での様子等について情報共有をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービスをお伝えし、その中からお客様・ご家族様の希望するサービスをしっかり把握して情報提供をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様が出来る家事等はお手伝いをして頂いております。また、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活歴を伺ったり、事業所での日中のご様子をお伝えしたりしております。また定期的にお客様の写真の入ったプリントをお渡しすることで、ご家族とお客様との会話のきっかけを提供しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様だけではなく、ご家族やお知り合いの方や近所の方々にも参加をして頂けるお祭りを年に1回開催している。	8時～20時の面会時間を設け、家族だけでなく友人、知人出入りがあり、「地域での暮らしの支援」として踊りや歌などのボランティア訪問の機会を増やすことに力を入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で協力をして家事や体操、レクリエーションに取り組んでいただくことで会話のきっかけを提供しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何か相談事がある際には親身になって都度対応しております。また施設でのイベント等の際にはお誘いしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人一人と向き合い、お話を傾聴することで、ご本人の希望に寄り添う支援となるよう努めております。	アセスメントシートは介護計画の更新時に見直しをおこない、「食事」「移乗」等で項目が分けられ記録する個別対応表も定期更新をかけ現状をつかみ、職員きどりで会議に参加している微笑ましい利用者もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまで担当していたケアマネジャー様からお話を伺いサービスにつなげる様努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙、申し送りノートを活用し、常にお客様の現状の把握をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を開催し、その中でお客様についてのカンファレンスを行っております。意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映できるよう努めております。	職員意見は記録とカンファレンスから抽出し、計画作成担当者兼介護支援専門員が介護計画書を作成しています。またサービス内容は毎日○×△式で付け、実施を確かなものとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を有効活用し、チームで情報を共有しながら、アイデアを出し合っております。また、アイデアを元の実践し、随時介護計画を見直すようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回の訪問理美容の手配、イベントの参加、ボランティアの招致等といった取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方にご挨拶をしたり、地域行事に参加したりと支援が行えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医や訪問看護と連携を取っていますが、ご本人とご家族の要望により、Drを選択できるようにしております。また、ご家族の意向に合わせ、状況に応じて通院介助も行っております。	月2回訪問診療くださる協力医に全員が変更しており、また本年度から訪問看護事業所の看護師が週1回健康管理に訪れています。パソコンでの看護記録、各個人ファイルに医療情報が収まっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の体調が優れない時はすぐに主治医や訪問看護に連絡をしており、随時指示を頂く等連携を意識しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行い、その後の対応方法やケアについては主治医と訪問看護と連携をして相談して決定しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご家族、訪問看護と連携をし、最期までその人らしい生活ができるように支援しております。	本年度の看取り実績は1名です。看取りをおこなう事業所であることを家族に周知していますが、事業所は取組む際に家族の特段の協力を求めているとはならず、家族が泊まり込むといったことはありません。祈りのカンファレンスは必要に応じて個別に対応しています。	緊急時の意向確認書を用意するか否かの検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを持ち、チーム内研修を通じて対応の確認をしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	脱出経路の確認や消火訓練等、施設にて年に2回防災訓練を実施しております。また地域の防災訓練にも参加しております。	年2回の法定訓練では内1回を消防署職員の立ち合いを得て実施しています。タイムスケジュール通りに終えることもでき好評価ももっていますが、「夜間想定を～」との指摘はがあり次回の計画に加えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇を確認したり、社内で個別のマナー研修を実施しております。	インカム、カメラ等「尊厳を守る」「接遇向上」への機器を基盤に、本人本位の関わりが叶っていることを記録からも確認できます。やや語調が強めの職員もいますが、総じて丁寧に接していることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様におやつメニューやレクリエーションの内容でご希望をされる事を都度伺ったりしております。可能な限りご期待に添えるように対応をさせて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いや体操、レクリエーションの参加は強制ではなく自主参加としております。お客様に予定を告げてお客様の積極的な参加を促しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使われていた私服を持って来て頂いております。衣服を着用する際にはご本人様へご希望を伺って選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の能力に応じて、お米を研いで頂いたり、お味噌汁を作ったりしております。また、食後の食器洗いと食器拭きもお願いしております。	業者委託の調理ですが、刻みやとろみ、ミキサー等は本人に合わせて職員が手を加えています。配膳や盛り付けを嬉々としておこなう「お母さん」まがいの利用者が何名かいて、食事前から賑わいがあります。	下処理や煮込み時間など細かい点に配慮がないと感じられましたので、業者には是正を求めることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表と水分量のチェック表を使って一日の食事・水分が適切なものになるように支援をしております。塩分制限が必要なお客様にも配慮をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ずお声掛けと見守りを実施する事により、口腔ケアを徹底して口腔内を清潔に保っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら個別の排泄パターンを把握し、定時にトイレ誘導を行っております。可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援をしております。	入居したばかりであると、排泄チェックに基づく職員の声かけでテープ止めオムツがりハパンとなる人もいますが、長く此処で暮らす人も増え、現在は「維持」に留まっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめにして頂いたり、体操をして頂く事によって対応しています。H.30.11月からご家族了解のもとでヨーグルトを召し上がって頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を強制するのではなく、ご本人が自ら入りたくなるようなお声掛けを心掛けております。また入浴を拒否される場合は他の時間や曜日に振替を行っております。	清潔の目安が週3回は変わりませんが、職員の働き方改革でモジュールを見直した結果、「1日で9名入浴」に方法を替えています。また五感を意識して柚子、桃の葉、菖蒲の変わり湯を月1回おこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を尊重し、ご本人の落ち着いた服装と寝具にてお休み頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が生き活きと過ごせるよう、ご本人の趣味や特技を活かせる場(例:おやつレク)を提供しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩やドライブにお連れして気分転換を図っております。またご家族と連携を行い外出できる機会を増やし、お客様の希望に添える様支援をしております。	桜と薔薇、紫陽花の4～6月の花見、秋の紅葉、地域の祭りが年間計画に位置付けられています。「これいいね」「欲しいよオ」とメモを見ながらアレコレ選び、レジでお金を使う「買い物レクリエーション」は毎月1度、近くのスーパーマーケットで継続実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関してはご家族様に当施設では官理が出来ない旨をお伝えしています。事前にご家族へ了承を得て外出レク等で好きな物を購入して頂いたり、スーパー等でおやつのレクリエーションで使用する食材を購入する等で支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に了承が得られた際には対応をさせて頂いております。お客様からご家族と連絡をとりたいという要望があった際には、職員が取次ぎ対応をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心掛けております。	遅番、夜勤帯の職員が1日1回トイレやモップでの床掃除をおこない、居室は週2回と決めており、清潔が保たれています。レースカーテンに囲まれ目に優しい空間がつけられおり、カーテンを開ければ富士の頭が見えます。	リビングはややデイルーム感があるため、温もりのある家庭的なインテリアが増えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を決める際、お客様の交友関係を配慮し、お客様が和気藹々と過ごせる配置となるよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご本人の使い慣れた家具や家族の写真等を取り入れ、ご本人がくつろげる空間となるよう配慮をしております。	ベット、エアコン、カーテン、クローゼットが備わっているため、補材としてチェストやサイドテーブルなどが持ち込まれています。何着も掛けられるハンガーを置く居室は洋服が好きなことが覗え、加湿器は全室在ります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印をつけて解り易くするようにして対応しております。		